

タイトル… ファニーたい焼きトム
種類 沢山 ドライフルーツ

登場人物

トム（30代前半・男）

1. 『たい焼きトム』の店主。たい焼きが大好きな米国人。
2. 「どうせ作るならファニーなたい焼きを！」がモットー。
3. 陽気でエンタメ精神が強く、新しいアイデアにワクワクするタイプ。
4. たい焼きの可能性を追求し、時に突飛な発想をするが、結果的にヒットを生み出す。

魚住（20代前半・女）

1. 『たい焼きトム』のバイト店員。
たい焼き好きの日本人。

2. 真面目で心配性な性格。トムの無茶な発案に毎回困惑するが、結局協力する。
3. 接客が得意で、お客のリアクションに敏感。SNSのチェックも担当。
4. 最初はトムのアイデアに半信半疑だが、結果的にその斬新さに驚かされる。

その他（お客たち）

- サラリーマン
- 女子高生
- 主婦
- トレーナー風の男
- 観光客
- テレビのリポーター

ライバルキャラ

- 隣のたい焼き屋の店主

。ラストに登場する謎の男。トムの
アイデアに衝撃を受けるも、「真似
できない！」と嘆く。

シーン1.

（店内、カウンターの奥。トムがホワイ
トボードに「新作たい焼き！」と書いて
いる。魚住はレジを整理しながらチラ見
している）

トム「魚住！ついに来たよ、この時が！
新たなフロンティアを切り開きたい焼き
の登場だ！」

魚住「ああ、またですか……（深いため
息）」

トム「今度のコンセプトは『ヘルシー&
フルーティー！』」

魚住「健康志向はいいですね……って、まさかまた変なもの入れませんかよね？」

トム「ノンノン、今回は自然の恵み、そう！ドライフルーツをたっぷり入れるのさ！」

魚住「ど、ドライフルーツ……？」

（トム、勢いよくホワイトボードに『ドライフルーツたい焼き！』と書き足す）

トム「レーズン、マンゴー、イチジク、デーツ、クランベリー、パイナップル！種類は多ければ多いほどいい！」

魚住「え、それは……おいしいんですか？」

トム「未知数！でもそこがファニー！さあ、試作するぞ！」

シーン2..

(厨房。トムがエプロンを着け、テンションマックスで生地をこねる)

トム「まずは特製の生地！ほんのり甘く、ふわっと軽やか！まるで雲のようなたい焼き！」

魚住「はいはい、で、どれくらいドライフルーツ入れるんです？」

(トム、ドライフルーツをどさっと山盛り投入)

魚住「いや、ちょっと入れすぎじゃ……」

そんなに沢山入れたら、顎が疲れそう！」

トム「たっぷり入れないとリッチな味にならないのさ！おおっと、ここでシナモンをひと振り！」

魚住「なんかパンみたいになってきましたけど……」

（トム、たい焼きの型に生地を流し込み、ワクワクしながら焼き上がりを待つ）

（焼き上がり。たい焼きの表面からドライフルーツが飛び出している）

トム「完成！見るがいい、このゴージャスなたい焼き！」

魚住「（ため息）これは……売れるんじゃないか」

シーン 3.

（開店。最初のお客が入店）

お客1（サラリーマン）「えっ、新作？

ドライフルーツたい焼き……？」

トム「そうさ！フルーツ好きにはたまらない、まるで宝石箱のようなたい焼きだよ！」

お客1「じゃ、じゃあ一つ……」

（お客、ひと口食べる）

お客1「うおっ！なんだこのフルーツの密度！甘酸っぱさが脳に直撃する……！もちもちの生地の中でフルーツがプチプチ弾ける！」

お客1「レーズンの濃厚な甘さに、マンガーのトロピカルな香り……おお、イチジクのプチプチ感もある！」

お客2（女子高生）「クランベリーの酸味がいいアクセント！パイナップルの爽やかさも！」

お客3（主婦）「この食感と甘酸っぱさ、紅茶と絶対合う！」

お客4（トレーナー風の男）「これ、プロテインと組み合わせたら最強かも……！」

（さらに数人のお客がどんどん購入し、大興奮しながら食べるシーンを追加）

トム「ほら、話題性バツグンだろう？」

魚住「（ホッ）意外といけるかも？」

シーン4..

（店の外、スマホを片手に魚住がSNSの反応をチェック）

魚住「えーつと、『新しいスイーツ爆誕！』

『意外と合う！？ドライフルーツたい焼

き』『映える！かわいい！』……おお、

好評っばい！」

魚住「えええ、ちょっと待って……！？」
『朝の栄養補給に最適！』『健康志向の
スイーツ革命』……こんなにバズって
る！？」

（テレビ番組で取り上げられ、リポーター
が興奮しながら食べるシーンを追加）
トム「やったぜ、魚住！俺たちのたい焼
きが新たな伝説を作る！」

シーン5..

（数日後。店は大繁盛、ドライフルーツ
たい焼きを求める人々で長蛇の列）

魚住「トム！もう生地がない！」

トム「なんだって！？昨日の倍仕込んだ
のに！？」

お客たち「まだですか!?」「もう5個追加!」

魚住「トム!早く追加焼いて!」

トム「よし、全力で焼くぞ!!」

(さらにお客が増え、外国人観光客やテレビの取材陣も押し寄せる)

魚住「(ハアハア)こんなに売れるなんて……!」

トム「フアニーなアイデアは世界を変えるんだよ!」

エピソード

(閉店後。トムと魚住が一息ついていると、謎の男が来店)

謎の男「……このドライフルーツたい焼き、すごい……」

（男、眼鏡を外すと隣町のたい焼き屋の店主だった）

隣町の店主「だが、真似できない！何が違うんだ……！？」

（トム、ニヤリと笑う）

トム「それがフアニーたい焼きトムの秘密さ！」

（閉店後、店の奥で余ったドライフルーツを食べる二人）

魚住「……顎、疲れた……」

（トム、大笑い）

（エンドロールへ）

